

人権週間にあわせて、市民のみなさんから募集した人権作品の中から、優秀作品を紹介します。



人権作文 最優秀賞

中学生の部
双葉中学校 1年 横井 佑哉さん

「個々の個性」

「人権」と聞くと、何かかた苦しく難しいものと思う人が多いかもしれない。でも、ぼくは野球解説者の金村義明さんの「在日魂」という本を読んで理解できたような気がした。彼は報徳学園のエースで四番。甲子園の優勝投手である。ドラフト一位で近鉄に入団し、中日、西武を経て今ほとてもおもしろい野球解説者である。

彼の強さやエネルギーの源は、強烈な個性を持つ母親であり、

ひいては朝鮮人としての誇りだ
という内容だった。

彼は昼間はゴルフのキャディーをし、夜は寝ずに内職をして働いていた働き者の母に育てられた。彼の母は「朝鮮人のくせに……」とか言われてもがんばって耐えてきた。彼が小さい時には「朝鮮人やから絶対負けたらあかんぞ。野球でも勉強でもギリギリの線の所にぶらさがってたらあかんのや。差別があるからだれも追い越せないとこまでいくように、がんばらなあかん。」ということは何度もくり返し言っていたぞうだ。それに「朝鮮人やからと言って引け目を感じんでもええぞ。朝鮮人は根性があるんや。そして人間はみんな一緒なんやぞ。」と誇りを持つて生きていくことと、人権の大切さを常に言っていたぞうだ。彼はさまざまな人と出会い、ふれ合って、世界を広げ、まず自分らしさを肯定することから始めていたように思う。だから彼は、小学校のころから自分が在

日であることを「なんで隠さなあかんねん。」と言っていたのだと思う。彼の気っ風の良さなだろう。

ところで、自分の日常はどうだろうか。いろんな所で、「……のくせに。」という言葉をとてよく耳にする。自分の場合はクラスで背が前から二番目と低い。学校では言われたことはないが、サッカーの時に一度「チビのくせに……。」と言われたことがある。言われた時には、とても腹が立ったし「がんばって大きくなって見返してやる。」と思った。「チビのくせに」という言葉はねのけるぐらいがんばって上手になりたいと思ったし、逆に「チビやから……。」という風に都合のいい理由にしたくもないと思った。チビでも、よく考えて工夫して大きな人にせり勝つこともある。だから「……のくせに」と「……やから」という言葉は聞きたくないし使いたくないと思った。

このような日常を通して分か

ったことは、人権とは個々がもつ自分らしさを認め、理解することだと思った。一人一人が個性や能力を生かして「自分らしく生きる」ということ。このことこそが、守られるべき権利なんだと理解することができた。これからも自分の個性を生かして自分らしく生きていきたいと思う。そして世の中がその個性を肯定できるようになればいいと思う。



お問い合わせ
総務部 人権政策課 (米原庁舎)
☎52-6629 ④52-4539